（提案１７）

日本学術会議主催学術フォーラム「工学分野の参照基準とこれからの工学教育
－参照基準が工学教育の質保証に果たす役割－」の開催について

１．主催　　日本学術会議

２．開催日時　平成 26 年 12 月 7 日（日）13:00～17:00

３．開催場所　日本学術会議講堂

４．企画趣旨

日本学術会議では大学教育の分野別参照基準の作成を強力に進めており、工学系の分野においても既に機械工学分野と土木工学・建築学分野、材料工学分野の参照基準が完成しており、また電気電子工学分野で参照基準の案が取りまとめられつつある。

これらの参照基準においては、大学教育の多様性を損なうことなく、各分野の教育の質保証に資するため、学士課程教育で踏まえてほしい最も本質的な考え方に内容を絞って、その具体的な内容を明らかにすることが目指されている。

各分野の参照基準が具体的にどのような内容で、今後それが工学教育の質保証にどのような役割を果たすことが期待されるのか。本フォーラムでは、大学教員はもとより、産業界、学生、さらには広く一般の人々の来場を歓迎し、聴衆との意見交換も行いながら、参照基準の策定に携わった関係者と、工学分野での教育の質保証に関する有識者とで議論を深める。

５．演題・演者等

コーディネーター（司会）
北村　隆行（日本学術会議連携会員、京都大学大学院工学研究科機械理工学専攻教授）

第１部　講演（演題は仮題）

「分野別の参照基準について」
北原　和夫（東京理科大学大学院科学教育研究科教授）

「電気電子工学分野の参照基準案について」
保立　和夫（日本学術会議第三部会員、東京大学大学院工学系研究科教授）

「JABEE と分野別の参照基準について」
岸本喜久雄（日本学術会議連携会員、東京工業大学大学院理工学研究科教授）

第２部　パネルディスカッション－参照基準とこれからの工学教育の質保証

パネリスト

・土木工学・建築学分野の参照基準の分科会委員から１名

・材料工学分野の参照基準の分科会委員から１名

・有信　睦弘（日本学術会議第三部会員、東京大学幹事）

・北村　隆行（日本学術会議連携会員、京都大学大学院工学研究科機械理工学専攻教授）

・岸本喜久雄（日本学術会議連携会員、東京工業大学大学院理工学研究科教授）

コーデイネーター：

濱中　淳子（独立行政法人大学入試センター研究開発部准教授）

広田　照幸（日本学術会議連携会員、日本大学文理学部教授）

（提案１８）

公開シンポジウム「看護系学会の看護ケアガイドライン開発の現状と展望」

１．主　催：日本学術会議　健康・生活科学委員会 看護学分科会

２．共　催：日本看護系学会協議会

３．後　援：日本看護科学学会、第 34 回日本看護科学学会学術集会

４．日　時：平成 26 年 11 月 30 日(日)16：50－18：50

５．場　所：名古屋国際会議場 4 号館白鳥ホール（南）

６．分科会の開催：開催予定

７．開催趣旨：

看護学分科会は、20 期～22 期にわたり、看護の専門性発展をめざし、高度実践看護のあり方について提言を作成し、日本看護系学会協議会(看護系学会の集合体)とともにシンポジウム開催を積み重ねてきた。日本看護系学会協議会では、平成 25 年度に協力学術研究団体である看護系学会の看護ケアガイドライン開発状況について実態調査を行った。本シンポジウムではその調査結果を報告し、ガイドラインを開発した学会からガイドライン開発において直面した問題や対応策を報告してもらう。また、わが国における診療ガイドラインの作成支援、ガイドラインの評価・普及に関わる医療情報サービスセンター『Minds 診療ガイドライン作成の手引き 2014』の監修を務めた福井次矢氏から、ガイドライン作成の意義とプロセス、留意点などについて助言をいただく。このことを通して、看護ケアガイドラインの意義と有効な開発・普及方法について共有し、ガイドライン開発推進の機会としたい。また、各学会個々のガイドラインをいかに集約して看護界全体で共有・活用できるのか、看護の知見としていかに蓄積して学術的発展につなげていくのか討議し、看護学分科会、看護系学会協議会が果たす役割を明らかにしたい。

８．次　第：

座長　野嶋佐由美*（日本学術会議連携会員、日本看護系学会協議会会長、高知県立大学教授）

高田　早苗（日本看護系学会協議会副会長、看護ケアガイドライン開発推進プロジェクト、日本赤十字看護大学教授）

16：50-17:00　挨拶

片田　範子*（日本学術会議第二部会員、兵庫県立大学教授）

17：00-17:20 「看護系学会における看護ケアガイドライン開発状況調査の結果と課題」

内布　敦子*（日本学術会議連携会員、日本看護系学会協議会・ガイドライン開発推進プロジェクト、兵庫県立大学教授）

17：20-17:40 「看護ケアガイドラインの開発」

二宮　啓子（一般社団法人日本小児看護学会理事長、神戸市看護大学教授）

17：40-18:00 「看護ケアガイドラインの開発」

神田　清子（一般社団法人日本がん看護学会ガイドライン委員会委員長、群馬大学教授）

18：00-18:20 「ガイドライン開発の意義とポイント」

福井 次矢（日本学術会議連携会員、聖路加国際病院・聖路加国際大学理事長）

18：20-18:50　討議、まとめ

９．関係各部の承認有無：第二部承認

（*印の講演者は、主催分科会委員）

（提案１９）

公開シンポジウム「沖縄に国立自然史博物館を！～ちゅら島の豊かな自然を未来につなぐ～」開催について

１．主　催：日本学術会議 基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同 自然史財の保護と活用分科会、動物科学分科会

２．共　催：琉球大学、シンポジウム「沖縄に国立自然史博物館を！」実行委員会、沖縄美ら島財団、沖縄生物学会

３．後　援：沖縄県

４．日　時：平成 26 年 12 月 6 日（土）13:00～16:30

５．場　所：沖縄県立博物館・美術館講堂
（〒900-0006 沖縄県おもろまち 3 丁目 1 番１号）

６．分科会の開催：開催予定

７．開催趣旨：
沖縄の生物多様性は世界でも有数の豊かさであることはよく知られている。加えて、沖縄は日本のみならずアジア地域における生物多様性研究および保全の拠点となる可能性を秘めている。従って、日本で国立の自然史博物館を新設するならば、その第一号の適地は沖縄である。さらに、日本学術会議の自然史標本の文化財化、動物科学、そして自然史・古生物の 3 分科会において、「第 22 期学術大型研究計画（マスタープラン 2014）」に向けて「国立自然史博物館の設立」構想が議論されてきた。以上のことから、本シンポジウムでは、生物多様性に関する研究や国立自然史博物館設立の必要性に関する講演に加え、パネルディスカッションにおいて様々な視点から沖縄における国立自然史博物館設立構想について検討する。

８．次　第：
13：00～13：10　開催挨拶と趣旨説明
西田　　睦（日本学術会議連携会員、琉球大学理事・副学長）
13：10～13：40　基調講演：国立自然史博物館と生物多様性
松浦　啓一*（日本学術会議連携会員、国立科学博物館名誉研究員）
13：40～13：55　沖縄の自然と生物多様性

当山　昌直（沖縄生物学会副会長）
13：55～14：10　世界遺産候補地「奄美・琉球」の自然
阪口　法明（環境省那覇自然環境事務所野生生物課長）
14：10～14：25　国立自然史博物館に期待すること
禹　　済泰（株式会社沖縄リサーチセンター社長）
14：25～14：40　国立自然史博物館と観光
松本　晶子（琉球大学観光産業科学部教授）
14：40～14：55　沖縄の生物多様性と自然史博物館
大浜　浩志（沖縄県環境企画統括監）
14：55～15：10　日本学術会議と国立自然史博物館構想
岸本　健雄*（日本学術会議第二部会員、お茶の水女子大学サイエンス＆エデュケーションセンター客員教授、東京工業大学名誉教授）
15：10～15：20　休憩
15：20～16：20　パネルディスカッション
司会：
西田　　睦（日本学術会議連携会員、琉球大学理事・副学長）
パネリスト：
上記講演者
林　　良博*（日本学術会議連携会員、国立科学博物館館長）
16：20～16：30　閉会の挨拶
馬渡　駿介*（日本学術会議連携会員、北海道大学名誉教授）

９．関係部の承認の有無：第二部承認

（*印の講演者は、主催分科会委員）

（提案２０）

公開シンポジウム「植物保護における分類情報の重要性」の開催について

１．主　催：日本学術会議農学委員会植物保護科学分科会

２．共　催：植物保護科学連合

３．後　援：なし

４．日　時：平成 26 年 12 月 6 日（土）13:00～17:00

５．場　所：東京大学農学部２号館化１番教室

６．分科会の開催：開催予定

７．開催趣旨：

温暖湿潤の我が国では、農作物の収量や品質に影響を及ぼす病害虫・雑草の発生が多く、その防除が不可欠である。特に、地球温暖化や人口増加に伴う環境・食料問題は一層深刻になることが予測され、それに伴って、生物学及び化学的な知見等を融合させ、より効果的な植物保護技術を開発することが喫緊の課題になっている。一方、生物学の基本となる「分類学」は生物学分野での根幹をなす重要なものであるが、分類専門家の激減により本研究分野の発展が憂慮される状況にある。

植物保護科学分科会は、植物保護を学術活動の基盤とする日本応用動物昆虫学会、日本植物病理学会、日本農薬学会、日本雑草学会、植物化学調節学会で構成される植物保護化学連合と連携し、毎年シンポジウムを開催して、関連分野での連携強化と研究活動の深化を図ってきた。本年は、今後の分類学のあり方を探るため、植物保護科学に関連したさまざまな分野における「分類学」の現状を紹介し、将来についての方向性を論議する。

８．次　第：

13：00　開会挨拶「シンポジウム開催にあたって}

白石　友紀*（日本学術会議連携会員、岡山県農林水産総合センター生物科学研究所所長）

13：10　昆虫分類・多様性研究と情報整備の現状およびその必要性について

多田内　修*（日本学術会議連携会員、九州大学理学研究院生物科学部門特任教授）

13:45　DNA マーカーによる外来雑草の侵入実態の解明と将来的な農作物被害拡大リスク評価

黒川 俊二（独立行政法人農研機構中央農業総合研究センター、主任研究員）

14：20　菌界と植物界における植物ホルモン生合成の分子進化と生長制御への適応

川出　　洋（東京農工大学大学院農学研究院准教授）

14：55－15：05　（　休憩　）

15：05　呼吸鎖電子伝達制御における化合物の多様性と共通性

三芳　秀人（京都大学大学院農学研究科教授）

15：40　植物保護を支える病害関連情報と病原微生物株のネットワークーNIAS Genebank の取り組みー

佐藤　豊三（独立行政法人農業生物資源研究所上級研究員）

16：20　総合討論

（司会）白石　友紀*（日本学術会議連携会員、岡山県農林水産総合センター生物科学研究所所長）

17：00　閉会

９．関係部の承認の有無：第二部承認

（*印の講演者は、主催分科会委員）

（提案２１）

公開シンポジウム「グローバル人文学の可能性と課題」の開催について

１．　主催：日本学術会議哲学委員会

２．　共催：日本哲学系諸学会連合、日本宗教研究諸学会連合

３．　日時：平成 26 年 12 月 6 日（土）13：30～17：00

４．　場所：日本学術会議講堂

５．　委員会：哲学委員会及び合同分科会を開催予定

６．　開催主旨

日本の学術のグローバル化（国際交流、国際発信）を考えるとき、自然科学分野に比べて、人文社会科学分野が著しく立ち遅れていることは否めない。そこには「言語の壁」が立ちはだかっており、翻訳を進め相互理解を深めるに際しては、各地域の文化や文明が形作るコンテクストが見えないハードルとなっているからである。本シンポジウムでは、ナショナリズムとコスモポリタニズムの対立などグローバル化にまつわる理念的問題を論ずるとともに、国際発信のための具体的方策（英語を中心とした「翻訳センター」の設立）を提案することによって、未来形の人文社会科学を考える貴重な機会としたい。

７．　次第

・司　　会：野家　啓一　（日本学術会議連携会員、東北大学総長特命教授）
・開会挨拶：岡田真美子*（日本学術会議第一部会員、哲学委員会副委員長、中村元記念館東洋思想文化研究所研究員）
・報 告 者：西村　清和*（日本学術会議第一部会員、國學院大学文学部教授）
後藤　和子（摂南大学経済学部教授）
チャールズ・ミュラー（東京大学大学院人文社会系研究科教授）
林　　永強（東京大学大学院総合文化研究科特任准教授）
・コメンテーター：
下田　正弘　（日本学術会議連携会員、東京大学大学院人文社会系研究科教授）
上原麻有子（京都大学大学院文学研究科教授）

・閉会挨拶：藤原 聖子*（日本学術会議第一部会員、東京大学大学院人文社会系研究科准教授）

８．　タイム・スケジュール（概要）

13：30～13：45　開会挨拶（岡田）および趣旨説明（野家）
13：45～15：05　提題報告（西村、後藤、ミュラー、林、各 20 分×4）
15：05～15：20　休憩
15：20～16：00　コメント（下田、上原、各 10 分、提題者からの応答各 5 分）
16：00～16：55　フロアとの質疑応答
16：55～17：00　閉会挨拶（藤原）

９．　関係部の承認の有無：第一部承認

（*印の講演者等は、主催委員会委員）

（提案２２）

公開シンポジウム「デング熱と蚊の分類と自然史標本」開催について

１．主　催：日本学術会議基礎生物学・統合生物学委員会合同 自然史財の保護と活用分科会、動物科学分科会、基礎生物学委員会・統合生物学委員会・地球惑星科学委員会合同 自然史・古生物分科会

２．共　催：日本分類学会連合

３．後　援：なし

４．日　時：平成 26 年 12 月 15 日（火）13:00～17:00

５．場　所：日本学術会議講堂

６．分科会の開催：開催予定

７．開催趣旨：

最近日本各地で発生したデング熱は、小さな昆虫の動向が社会に大きな動揺をもたらすことを示した。この間、デング熱の病態や治療についてはマスコミ等で多く報道されてきたが、媒介昆虫である蚊の分類学、および分類学に必要不可欠な自然史標本について、いまだに社会の理解が浅いことが判明した。媒介昆虫の分類と同定を誤れば社会に多大な影響を与えかねない。そこで、自然史標本の公的位置づけについて議論を続けている日本学術会議「自然史財の保護と活用分科会」が中心となり、分類学と自然史標本が昆虫媒介感染症に果たす意義を社会に知らしめることを目的とする。

８．次　第：

13：00～13：20　開催挨拶と趣旨説明

岸本　健雄*（日本学術会議会員、お茶の水女子大学サイエンス＆エデュケーションセンター客員教授、東京工業大学名誉教授）

13：20～13：50　デング熱流行と日本の蚊

栗原　　毅（国立感染症研究所客員研究員、帝京大学名誉教授）

13：50～14：20　アジアのデング熱媒介蚊の分類

比嘉由紀子（長崎大学熱帯医学研究所助教）

14：20〜14：50　デング熱を媒介するネッタイシマカ２亜種の起源と進化
　　二見　恭子（長崎大学熱帯医学研究所助教）
14：50〜15：00　休憩
15：00〜15：30　熱帯域における病原媒介性昆虫研究の現状
　　皆川　　昇（長崎大学熱帯医学研究所助教教授）
15：30〜16：00　分類学と標本―蚊だけじゃない！博物館の役割
　　大原　昌宏（北海道大学総合博物館教授）
16：30-17：00　パネルディスカッション
司会：馬渡　駿介*（日本学術会議連携会員、北海道大学名誉教授）
17：00　閉会

９．関係部の承認の有無：第二部・第三部承認

（*印の講演者は、主催分科会委員）

（提案２３）

公開シンポジウム「現代の雇用危機を考える」の開催について

１．主　催：日本学術会議社会学委員会、社会学系コンソーシアム

２．日　時：平成27年１月24日（土）14：00～17：00

３．場　所：日本学術会議講堂

４．分科会等：開催予定

５．開催趣旨：

いま、社会における雇用の枠組みが大きな転換期にさしかかっている。

非正規雇用があらゆる分野で正規雇用を駆逐しつつある。

若者たちは、就活こそが人生の最終目標であるかのように懸命に走っている。しかし、就職してみれば、職場には多くの問題が山積しており、短期間で転職する若者は多い。

高齢層は、年金財源を担保するためもあって、定年延長という潮流の中にある。しかし、実際には再就職先は必ずしも保証されていない。

企業内における年功序列制を停止すると宣言する企業も増えつつある。

また別の面では、少子化対策としての育児休暇やワークライフバランス、男女共同参画などを推進するといわれているが、実態はかなり覚束ない。

本シンポジウムでは、こうした現代の雇用危機を多面的に論じ、未来に向かっての提言の足がかりとしたい。

６．次　第

開会挨拶

吉原　直樹（日本学術会議連携会員、大妻女子大学文学部教授、社会学系コンソーシアム理事長）

司　会・オーガナイザー

遠藤　　薫*　（日本学術会議第一部会員、学習院大学法学部教授、社会学系コンソーシアム理事）

小谷　　敏　（社会学系コンソーシアム理事、大妻女子大学人間関係学部教授）

発　表

１：若者の雇用を考える

宮本みち子（日本学術会議連携会員、放送大学教授）

２：転職の社会学

渡辺　　深（上智大学総合人間科学部教授）

３：精神分析学から雇用問題を考える

樫村　愛子（愛知大学文学部教授）

４：ブラック企業を考える

今野　晴貴（NPO 法人「POSSE」代表理事）

５：無業社会を考える

西田　亮介（立命館大学大学院先端総合学術研究科特別招聘准教授）

コメンテーター

橋本　健二（早稲田大学人間科学学術院教授、社会学系コンソーシアム理事）

堅田　香織里（法政大学社会学部専任講師）

閉会挨拶

友枝　敏雄*（日本学術会議第一部会員、大阪大学大学院人間科学研究科教授）

８．関係部の承認の有無：第一部承認

（*印の講演者等は、主催委員会委員）